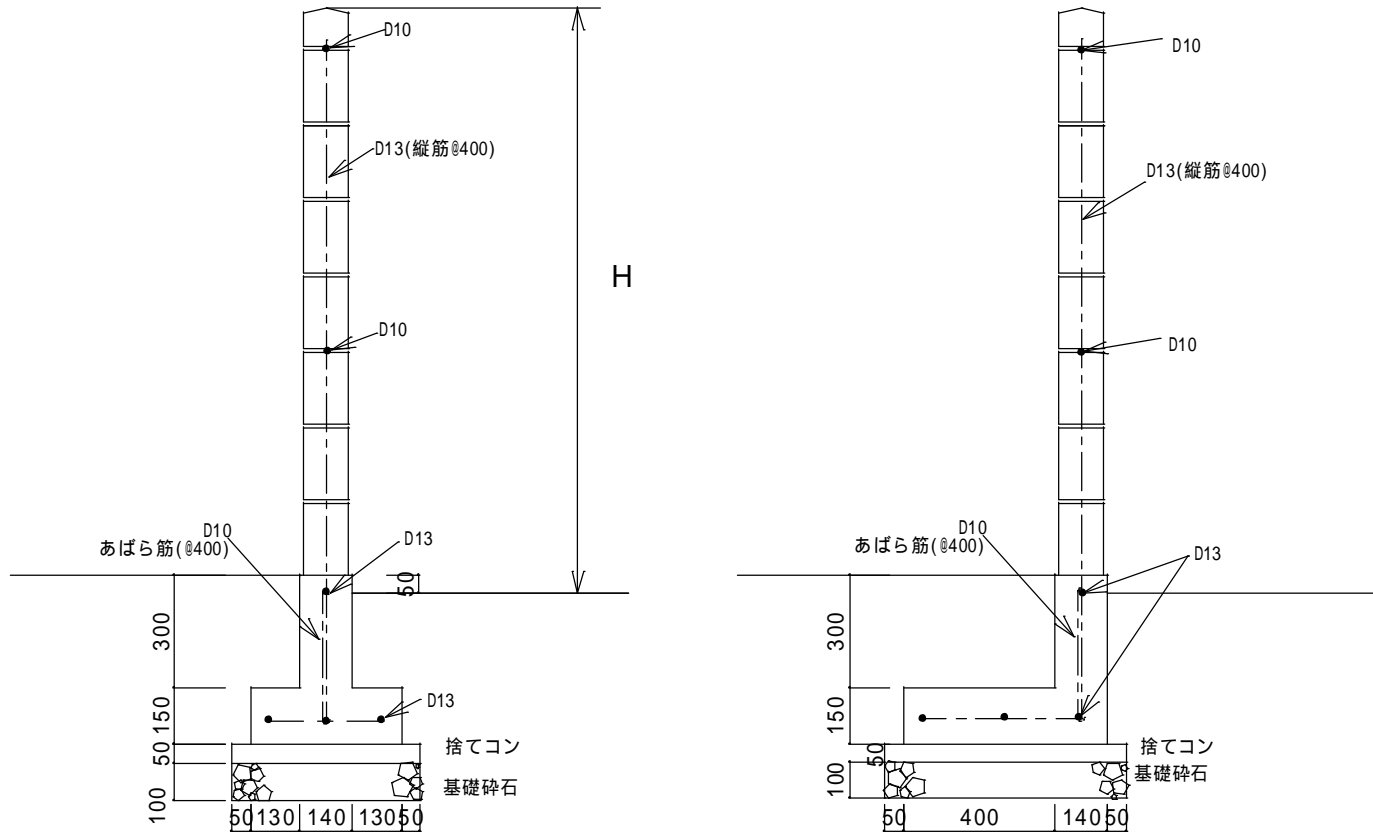
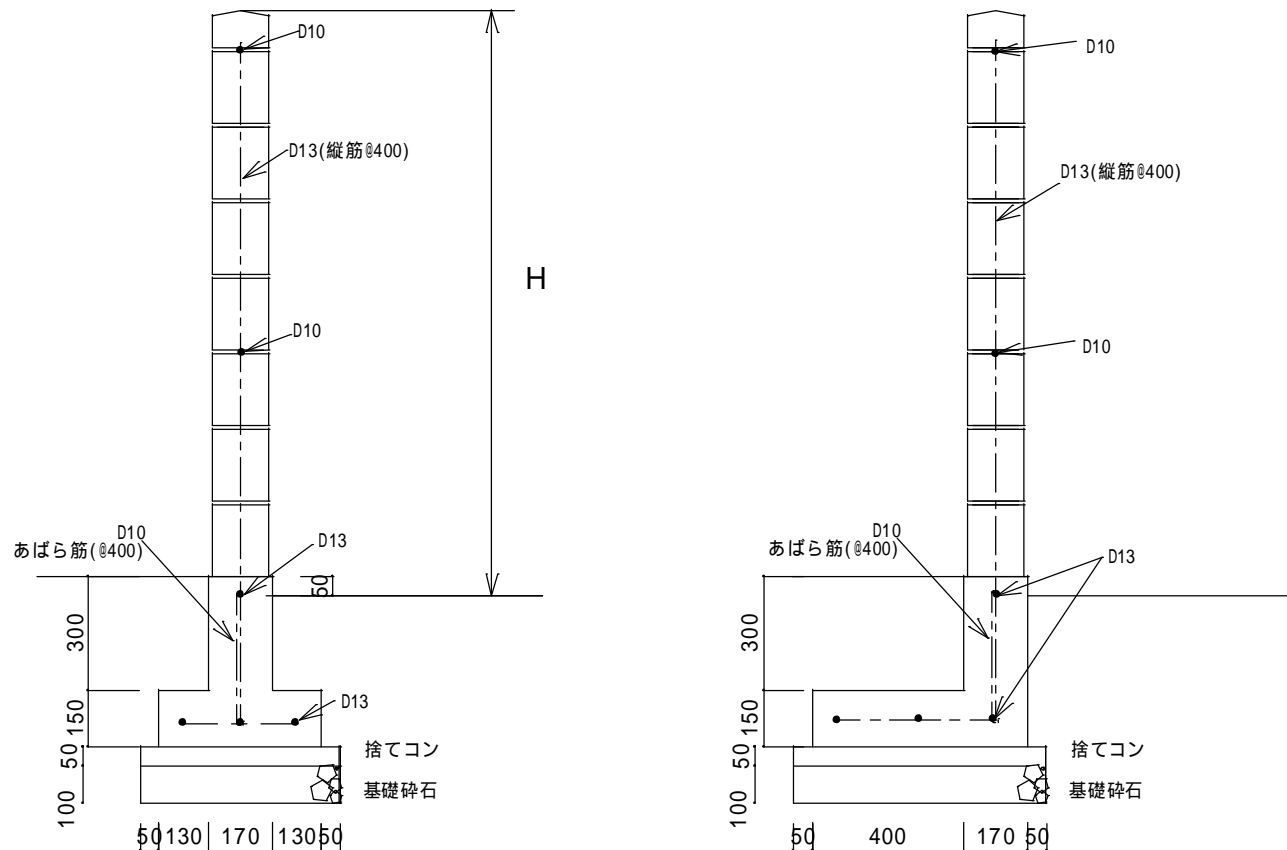


## コンクリートブロック積詳細図 S = 1 : 2 0

コンクリートブロックC種（120\*190\*390） H2.0m以下（ただしH1.6m以上の場合は控壁を設置する）  
\*地盤が軟弱土の時は20cm減じた数値とする



コンクリートブロックC種（150\*190\*390） H2.2m以下（ただしH1.6m以上の場合は控壁を設置する）  
\*地盤が軟弱土の時は20cm減じた数値とする



## ブロック塀の施工基準

コンクリートブロック塀設計基準（壁式構造関係設計基準同解説、日本建築学会編）及び組積造設計基準および建築基準法施行令第62条の8（へい）の規定を厳守し以下の点に注意する。

### 材質

鉄筋は特別の場合のほか、JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）ならびにJIS G 3117（鉄筋コンクリート用再生棒鋼）に規定するSD 30 A、SDR 30以上の品質を有するものとする。

モルタルの4週圧縮強度およびコンクリートの設計基準強度は、180kgf/cm<sup>2</sup>以上とする。

金属製フェンスは、JIS A 6513（金属製格子フェンス及び門扉）の規定に適合するもの、またはこれらと同等以上の品質を有するものとする。

### ブロック塀の構造

塀の高さが、1.2m（規定に適合する場合は1.6m）を超えるものは、塀の長さ3.4m以下ごとに、基礎ならびにブロック塀に接着する控壁、控柱を設ける。

塀は原則として、長さ50m以下ごとにエキスパンションジョイントを設ける。

塀の端部より80cm以内は控壁または、控柱などにより補強する。塀が交差する場合は、その交差角度が塀の直角方向に対し45°以下でかつ交差角度により塀の長さが最小40cmから60cmある場合は、控壁と同等とみなすことができる。

同一面内で高さが異なる塀の構造は、高い塀の長さが塀の長さの過半を超える場合は高さが高い方の規定によるものとし、かつ高さが変化する部分は、縦横ともD13以上の鉄筋で補強する。

透かしブロックは、縦筋が挿入できる形状のものとし、2個以上の連続、塀の最上部・最下部および端部に配置してはならない。

笠木ブロックは、縦筋が壁頂横筋にかぎ掛けされ、または空洞部に定着できる形状のものとする。

塀は土に接して設けてはならない。ただし、土に接する部分の高さが40cm以下でその部分の耐久性、安全性を考慮した場合は、この限りではない。

## ブロック塀の高さ・厚さと基礎の構造

### 1 塀の高さ

塀の高さ（地盤面より測る。ただし、地盤面に高低差のある場合は低い方による）は2.2m以下（化粧ブロックは2m以下）とする。

塀の厚さは、塀の高さ2m以下の場合は12cm以上、2mを超える場合は15cm以上とする。

側溝に接した塀の高さおよび根入れの深さは、側溝の底面より測る。ただし、側溝にJIS A 5305（鉄筋コンクリートU形）の規格に適合するもの、またはこれと同等以上の品質を有するものを使用する場合は、その上端面より測ることができる。

### 2 基礎の形状と塀の高さ

塀の高さは、図1に示す布基礎の標準形状の種類に基づき、布基礎・控壁・控柱の根入れ深さ、および地盤の性質に応じて、表1より表2に示す数値以下とする。

地盤の含水比が高く締固めが困難な軟弱土の場合には、表1および表2に示す塀の高さは、それらの表の普通土の場合の数値より20cm以上減じなければならない。

地盤が液状化の恐れのある砂質土の場合は、布基礎の形状はT形とし、前2号の数値を適用する。

表1 標準形布基礎を有するブロック塀の高さ（単位：cm）

基礎の形状	I形基礎		T・L形基礎		
	なし	あり	なし	あり	
控壁（控柱）の有無					
地盤の性質	普通土	120	140	160	180
	良質土	160	180	160	220

表3 鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さ

構造部分	かぶり厚さ
壁・ブロック造の控壁または門柱	2cm（フェイスシールの厚さを除く）
鉄筋コンクリート造の控壁または控柱	3cm
直接土に接する鉄筋コンクリート造の控壁、控柱、門柱の基礎および基礎立上り部分	4cm
基礎スラブ	6cm（捨コンクリート部分を除く）
直接土に接する型枠ブロック造の基礎立上り部分	4cm（フェイスシールの厚さの1/2を含む）

### 3 基礎の構造

塀の下部には、塀を安全に支持しかつ連続する鉄筋コンクリート造の布基礎を設ける。

控壁・控柱および門柱の基礎は、塀の基礎と一体とする。ただし、門柱の基礎で塀の基礎と連結できない場合は、水平荷重に対して安全であるようにしなければならない。

塀の布基礎の形状・寸法・根入れ深さなどは、図1に示す数値以上とする。

布基礎に型枠ブロックを使用することができる。その場合、型枠ブロックは防水性を有するものとし、打込みコンクリートの厚さは塀の厚さより3cmを引いた数値以上とする。

### ブロック塀の配筋

塀に挿入する縦筋および横筋は、D10以上の鉄筋とする。その縦筋間隔は表4に示す数値以下とし、横筋間隔は80cm以下とする。

横筋は横筋用ブロック内に配置し、壁頂には横筋を挿入する。横筋は、堀端部において控壁、控柱および門柱に定着させる。

縦筋は、ブロックの空洞部内で重ね継ぎをしない。塀の縦筋は基礎に定着するほか壁頂横筋にかぎ掛けし、または壁頂の空洞部に定着する。

控壁の縦筋および横筋は、D10以上の鉄筋とする。横筋は間隔80cm以下とし、縦筋にかぎ掛ける。外側部の縦筋は、表5に示す数値以上とする。

表2 標準形布基礎より根入れを10cm増やしたブロック塀の高さ

基礎の形状	I形基礎		T・L形基礎		
	なし	あり	なし	あり	
控壁（控柱）の有無					
地盤の性質	普通土	160	180	160	210
	良質土	160	220	160	220

（単位：cm）

図1

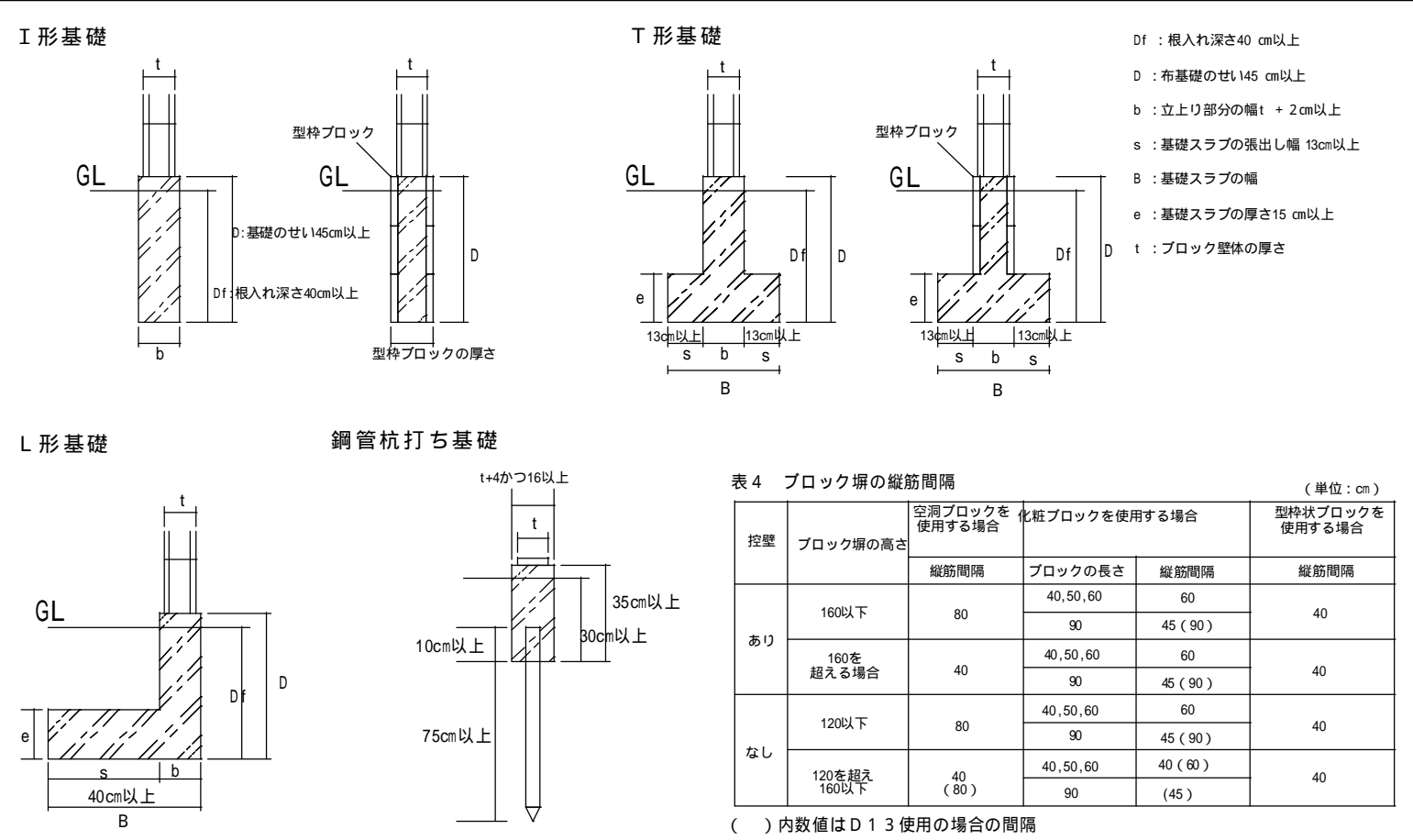


表4 ブロック塀の縦筋間隔（単位：cm）

控壁	ブロック塀の高さ	縦筋間隔	化粧ブロックを使用する場合		型枠ブロックを使用する場合
			縦筋間隔	縦筋間隔	
あり	160以下	80	40, 50, 60	60	40
	160を超える場合		90	45 (90)	
なし	120以下	80	40, 50, 60	60	40
	120を超え160以下		90	45 (90)	

（ ）内数値はD13使用の場合の間隔